

序論)

今日の箇所は旧約聖書で一番有名な御言葉といってもよい箇所かもしれません。4節の「43:4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」という御言葉はあまりに有名で、この御言葉によって励まされた人は多いのではないのでしょうか。

例えば、南アフリカのアパルトヘイトに反対して人種平等を求める活動をし、南アフリカ初の黒人大統領になったネルソン・マンデラ元大統領もこのみことばに多いに励まされて、投獄されても獄中から非暴力の人種平等運動を続けました。彼は白人支配に反対し27年間も投獄され、その期間に気力を失いそうになったこともあったそうです。しかし、この「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」というみことばが「私を支え、自由を勝ち取る力を与えてくれた」と述べています。

私自身も自分の罪深さに絶望しそうになったとき、この御言葉が与えられ励まされたことが何度もあります。

文脈)

今日の御言葉は1節の「だが今」という言葉からはじまっています。「だが」ということばは、前提になる事が先にあって、それは反対のことをいうときに使うことばです。では、この43章の前提とはなんのでしょうか。

それは42章の後半で語られていたイスラエルの状況です。42章後半で語られていたイスラエルの状況は、それはそれは酷いものでした。神様からメッセージを世界に伝える使者の役割を期待されていたにもかかわらず、神様の御心を全く悟っておらず、神様と和解し神様のしもべとして生きることを願われていたにも関わらず、神様を見ようとせず、むしろ神様に逆らい続けてきたのがこの時のイスラエルでした。

だから、神様は北イスラエルをアッシリアの手に渡し、南ユダ王国をバビロンの手にわたすことをお決めになったのです。42章24節はその神様の怒りをわかりやすく示しています。

42:24 だれがヤコブを、奪い取る者に渡したのか。イスラエルを、かすめ奪う者に。それは【主】ではないか。私たちはこの方の前に罪ある者となり、主の道に歩もうとせず、そのおしえに聞き従わなかった。

イスラエルが打たれ、アッシリアやバビロンに奪い取られるようにされたのは他

ならぬ神様の決定でした。これが先ほど読んだ 43 章の前提です。

1) 【主】の名で呼ばれる者

この前提を踏まえた上で改めて 1 節を読みましょう。

43:1 だが今、【主】はこう言われる。ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。」

神様と和解し、神様の栄光を現すことを期待されていたイスラエル。しかし、その神様の期待を裏切って、ことごとく神様のことを無視し続けて、バビロン捕囚という裁きを経験しなければいけなくなったイスラエルに神様は、「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。」と言われるのです。これは神様の救いの宣言です。

預言者イザヤはこの神様からの救いの宣言を預言するために、イスラエルを救い出してくださる神様がどのようなお方かを語っています。それが前半の部分

「ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が」です。

「創造した」と「形造った」というのは同じ言葉のように思いますが、違います。

「創造した」というのは創世記 1 章 1 節の「1:1 はじめに神が天と地を創造された。」の「創造した」と同じ言葉で、無からの創造を意味しています。イスラエルははじめから神様の民だったわけではありませんでした。もともとは偶像礼拝をしていたアブラハムを神様が選びだし、そこからイサク、ヤコブと続いてイスラエルという神の民をお造りになったのです。

「形造った」というのは無からの創造ではなく、造られたものを整え整形したことを意味します。具体的に言えばイスラエルに律法を与え、様々な神様の奇跡を経験させて、神の民として生きていくということはどうゆうことかを教えられたことです。

今日のみことばは直接的にはイスラエルに対して語られている御言葉ですが、神様に創造され、形造られたという意味では私達も同じなのではないでしょうか。私達もまことの神様を知らないものだったのに救われて神の民として創造され、祈りの応答や神体験、そして、聖書の御言葉によって形造られています。だから、今日のみことばは私達に向けて語られている御言葉として受け取って良いのです。

実際、主は 7 節のように言われています。

43:7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、また、これを造った。

みなさん、【主】の名で呼ばれるすべての者は、【主】に創造され、【主】に形造られています。だから、私達も【主】に創造され、【主】に形造られた者なのです。

これを理解した上で今日のみことばを自分に語られた御言葉として受け止めていきましょう。【主】はご自身が創造した民に対してどうされるのでしょうか。

2) 【主】は贖ってくださる

(1 節を表示) 神様は神の民として創造した民のことを贖ってくださるお方です。「贖う」とは、元々は他の人に奪われてしまった土地を、その人の家族や親戚が代わりに買い戻すことを意味しています。

イスラエル人は神様の裁きによってバビロンに国民ごと奪われることになりました。それがいわゆるバビロン捕囚です。しかし、その奪われたイスラエルを神様がまた買い戻してくださるのです。

そして、罪を犯してサタンの支配下に置かれた私達も、神様はもう一度自分のものにするために買い戻してくださいました。

だから、私達は神様のものなのです。「あなたは、わたしのもの」と、自らの所有を宣言してくださる神様のみことばは、神様に逆らい罪を犯した私達をしかる事はあっても決して見捨てないという神様の愛の宣言です。

そして、そのように神様に愛されているからこそ、神の民はたとえ水の中を通ることがあっても、火の中を歩くことがあっても大丈夫なのです。【主】は言われます 2 節。

43:2 あなたが水の中を過ぎるときも、わたしは、あなたとともにいる。川を渡るときも、あなたは押し流されず、火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。

これは歴史的には出エジプトの時に紅海をイスラエルが渡ったことや、約束の地に入る時にヨルダン川を渡ったこと、そして、バビロンのネブカデネザル王の時代にダニエルたちが火の炉に入れられても守られたことを指しています。

神様はたとえ一時的に敵の手に渡されたとしても、そこから救いだし守ってくださるのです。

私達も誘惑に負けて罪を犯し、一時的にサタンの支配下に置かれているような状況になることがあります。そして、激しい困難の中に置かれるときもあります。し

かし、【主】は神の民を贖い出し、救い出し、私達を守ってくださるのです。

実際に、イスラエルがバビロンから救い出される時はどうだったかという、神様は3節のように言われています。

43:3 わたしはあなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしはエジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。

聖書を知り、歴史を知っているみなさん。イスラエルはどのようにしてバビロンから解放されたのでしょうか。ペルシャの王キュロス王によってですね。当時のペルシャはバビロンだけでなく、エジプトやエチオピアなども支配下に置きました。それだけ圧倒的な力があつたのです。でも、彼らはイスラエル人を解放し、エルサレムに戻るようにしました。なぜでしょうか？ 神様がイスラエルを特別に救い出してくださったからです。

「エジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。」というのはエジプトやエチオピアなど、ペルシャに支配された他の国は解放されなかったけども、イスラエルだけ解放されたことを意味しています。ちなみにクシュというのがエチオピアのことで、セバというのがエジプトの南方にあつた国のことです。

神様は御言葉の通りに、イスラエルを解放し、預言の通りに【主】は神の民を贖ってくださるお方であることを示してくださいました。

3) 贖いの理由

では、なんで神様は神の民を救い出してくくださるのでしょうか。それこそがネルソン元大統領を励ました4節のみことばです。

43:4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だから、わたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにする。

みなさん、43章の前提はどのようなものだったのでしょうか。イスラエルが神の民であつたにもかかわらず、神様を見ようとせず、神様のみことばを聞こうとしない状態。神様のしもべであるはずなのに、神様に従おうとしなかつたゆえに、神様に裁かれてバビロン捕囚を経験しなければいけない状態です。

だから、本来ならば彼らは神様に「あなたは高価で尊い」なんて言われるはずがない状態でした。それは、私達にも当てはまることでしょう。この世界をお造りに

なった神様がおられるのに、その神様を無視し、自分勝手に生きていた私達。この世界にあるあらゆる素晴らしいもの。空気や水や、素晴らしい自然の恵みなど、神様からの恵みを受け取るだけ受け取って、でも、神様に従おうとしなかった私達。そんな私達も神様から「あなたは高価で尊い」などと呼ばれるはずがない者でした。

でも、神様はそんなイスラエルや私達に向かって「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」と言われるのです。

これが、神様が神様の民に注がれる愛です。 例え【主】に背き汚れた状態であったとしても、一方的に「高価で尊い」とみなしてくださって、愛してくれる。そして、そのために一方的に犠牲を払ってくださるのが神様の愛なのです。

4節後半の「わたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにする」というのは、神の民のために神様が犠牲を払ってくださることを示しています。

これはバビロン捕囚に当てはめると、エジプトやクシュ、セバのことを指しますが、永遠の神様の救いのご計画に当てはめると、罪によってサタンに支配されている私達のために、御子イエスキリストを犠牲にしてくださったことを指しています。使徒ヨハネがその手紙でこのように言っている通りです。

ヨハネの手紙 4:9-10

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

神様は、私達が神様を先に愛していなくても、自分のひとり子を犠牲にして私達を救うほどに私達を愛してくださっています。だから、神様は罪人である私達に向かって「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」と言ってくくださるのです。

私達はこの愛によって救われました。

4) 神の民を呼び集めてくださる

そして、神様はご自分が愛しておられる神の民を呼び集めてくださいます。5節、6節を読みましょう。

43:5 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。

43:6 北に向かっては『引き渡せ』と言ひ、南に向かっては『引き止めるな』と言う。わたしの息子たちを遠くから来させ、娘たちを地の果てから来させよ。

これは直接的にはバビロン捕囚によって世界に散らされたイスラエルを呼び集めてくださることを預言している御言葉です。

事実、イスラエルは捕囚によって散らされたのにやがてイスラエルに帰還することができました。

しかし、この御言葉が預言しているのはそれだけではありません。この預言は世の終わりにおける神の民の招集の預言でもあります。

マタイの福音書 24 章 31 節でイエス様はこのように言われました。

マタイ 24:31

人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。

これは世の終わりの時にキリストが世界中から神の民を呼び集めることを預言している御言葉です。神様はイスラエル人だけでなく、世界中の神の民を東から西から、そして、北からも南からも呼び集めてくださるのです。

これは最終的な神の民、神の教会の完成といえる出来事です。このようにイスラエルだけでなく、すべての神の民を呼び集めることを指しているから、7 節で【主】は宣言されています。最初にも読みましたが、もう一度読みましょう。

43:7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、また、これを造った。

だから、このイザヤ書 43 章の預言は、私達のための預言でもあるのです。

まとめ)

私達は神様の栄光のために、【主】に呼ばれ、【主】に救い出され、【主】に創造され、【主】に形造られました。

これは神様の一方的な愛とキリストの犠牲の結果です。

みなさん、私達はそれほど神様に愛され、神様に「あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」と言われているのです。

だから、【主】は私達に対して「恐れるな」と繰り返し語られています。

私達は何を恐れる必要がないのでしょうか。それは私達が神様に見捨てられるということを恐れなくて良いのです。一時的に【主】は、罪を犯した私達を懲らしめるために苦難の中に置かれることはあるかもしれませんが、ひとり子をお与えになるほどに私達を愛しておられる【主】は決して私達をお見捨てになりません。これは罪を犯しても大丈夫ということではなく、罪を犯さないことを求められていますが、例えば罪を犯してしまったとしても、その罪から離れ【主】の愛によって神の民として立ち直すチャンスが与えられているということです。

もう一つ、私達が、恐れなくてよいものがあります。それはこの世の敵です。この世のものは一時的に私達を支配し、苦しめるかもしれませんが、でも、私達を愛しておられる【主】は、その敵を倒して、水の中も、火の中も平気で歩いていけるようにしてくださるのです。

みなさんの敵は、いわゆる目にみえる敵だけではないかもしれません。罪の誘惑、憎み、怒り、肉の欲望というものがみなさんの敵になり、神の民らしくない人生を歩ませようとするかもしれません。

でも、みなさんを高価で尊いとみてくださる【主】は、みなさんのことを守り、導いてくださるのです。私達はその【主】を信じて、敵を恐れないようにしましょう。

大切なのは悪魔とか、悪霊とか、罪や誘惑といった敵を意識することではなく、私達を愛し、救ってくださった【主】を信じ、【主】だけを見上げ続けていくことなのです。愛してくださる【主】を信じ、罪深い自分の愚かさや霊的な敵を恐れなくて、神の民として歩んでいきましょう。